



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎ 36-7117

今月のテーマ 平成30年からの展望「第2次島田市総合計画」

今月は、いきなり重たい話題から入ります。今の日本(島田市)の最大の課題が「人口減少」であることは、以前からお話しているとおりです。市民の皆さんからは「悲観的なことを言うな。人口減少に歯止めをかけないでどうする」といった叱咤激励が届きますが、目先の現実を見れば、2020年には日本女性の半数が50歳を超えます。未婚化・晩婚化が進む日本で子育て施策が行き届いたとしても、子どもを産み育てられる女性は、どれくらいいるのでしょうか。たとえ一人の女性が一生の間に出産する子どもの数(合計特殊出生率)の推移値が多少改善したところで、「少子化」は止まりようがありません。2040年に人口



老人福祉センターでの体力づくりが増加している都市は全国で2%しかないというデータもあり、近隣市町あるいは日本国内で人口の奪い合いをしている場合ではないのです。

問題は、少子化・高齢化の進行により、人口の絶対数が激減したり、高齢者が急増したりすることで生じるさまざまな弊害に、いかに長期的な展望を持って対応していくかということではないでしょうか。

このような日本(島田市)を取り巻く背景のなか、本年は、今後8年間のまちづくりの設計図となる「第2次島田市総合計画」が始動する年になります。私が基本構想から関わったこの計画では、これからの市政運営の方向性をはっきりと打ち出しました。

人口減少、それに起因する緩やかな下降線を予感させる社会経済情勢の中であって、真に必要な施策・事業を選択し集中させ、市民の幸福度を上げていく、「量」から「質」への転換、すなわち「縮充」という考え方です。

限られた財源の中で、絶え間なく発生する諸課題に的確かつ効率的に対応するためにも、私たち自治体は、政策の質を重視する「縮充」の考え方に基づき、行政経営の視点による最適化を図り、芯の通った経営方針に裏打ちされた実行力を伴わなくてはなりません。

「第2次島田市総合計画 前期基本計画」では、市民幸福度の向上を最上位とする全137指標の「めざそう値」を設定し、進捗状況を明確に見える化したほか、7つの政策分野に計46の重点取り組みを位置付けました。今後「島田市のあるべき将来の姿」に向かって、市民の皆さんと共に、計画の着実な推進に努めてまいります。なお、具体的な施策などについては、別の機会に説明いたします。

結びに、お知らせですが、3月17日(土)に新病院建設工事施工者選定報告会を、会議棟大会議室で午前10時15分から開催します。施工者から新病院建設に係る提案内容などの発表と、選定委員から選定基準や決定に至った経緯などを報告いたします。どなたでも参加自由です。多くの皆様のご来場を、お待ちしております。



新市民病院 全体イメージ

「広報ひみ」から

姉妹都市である富山県氷見市から寄せられたイベント情報などを紹介します。

氷見市では、全国の中学生が憧れ、目標とする大会を目指し「春の全国中学生ハンドボール選手権大会＝春中ハンド」を平成17年度から継続開催しています。今や、全国のハンドボールを志す中学生たちが「春は氷見へ」と想いを定め、氷見市が「ハンドボールの聖地」として浸透してきています。



第13回となる今大会は、3月24日(土)から28日(水)まで、氷見市ふれあいスポーツセンターをメイン会場に開催。初日には、さまざまなオープニングイベントのほか、ハンドボールを基に開発した氷見市発の「ゆるスポーツ」をお披露目予定です。多くの皆様のご来場をお待ちしています。詳しくは、順次更新する大会ホームページをご覧ください。

㊟春の全国中学生ハンドボール選手権大会
氷見市実行委員会事務局 ☎ 0766-74-8502